

世の中に本当に必要とされているモノは何かを自問自答し 日本で初めて機能性ダンボールの開発に成功

同社の主要事業には「環境関連事業」と「パッケージ事業」の2つの事業があり、環境関連事業は産業廃棄物の収集から中間処理・リサイクル、最終処分にかかる各工程をアイザックグループで一貫して対応している。パッケージ事業では一般的なダンボール生産に加えて顧客のニーズに応じたさまざまな「機能性ダンボール」を開発している。耐久性・耐水性・保冷性などの高機能・高付加価値を加えた機能性ダンボールの分野では全国生産の約3割という大きなシェアを占めている。

所在地	富山県魚津市大字大海寺野村1181番地	設立	1963年
電話/FAX	0765-24-6000/0765-24-8242	資本金	9,900万円
URL	https://www.izak.co.jp/	従業員数	485人
代表者	代表取締役社長 石崎 大善		



鮮度保持等多様な機能を有する「機能性ダンボール」製品を開発

1980年に日本で初めて「機能性ダンボール」の開発に成功した同社は農産物生産者から鮮度保持機能を有するダンボールの要望があり、要望に対応するため従前から同社が持っている保冷ダンボールの製造技術にこの機能を加え、農産物の鮮度が保持できる製品を同社ならびに大学研究機関と共同して開発を行い、付加価値の高い機能性ダンボールを製造した。2016年には農林水産省・青果物輸出プロジェクトへ参画し、農産物輸出のためのパッケージ案も考案している。



保冷・鮮度保持機能を有するダンボール

「世の中に本当に必要とされているモノは何か」を自問自答し、成果を社会に還元

「世の中に本当に必要とされているモノは何か」「今現在だけでなく、将来にも必要とされるモノは何か」が創業以来の精神である。パッケージ事業では時代に応じた新しい価値を提案し、再生利用可能なパッケージ開発や高まるチルド輸送へのニーズ、医療業界、通信販売業界などの期待に応えた新製品を開発している。環境事業では次世代型焼却・発電施設「エネルギーセンター」を設置し国が運営するカーボン・オフセット「J-クレジット制度」へも登録するなど環境をキーワードに地域社会の発展に貢献している。



避難所開設訓練にダンボールベッド提供

新たな需要に合わせた革新的なダンボール製品を継続して開発

ダンボールと樹脂を一体加工した機能性ダンボールを開発した。防水・耐水・保冷性に優れた製品やフィルム内側にグラビア印刷を可能とした製品等を開発・製品化して、「機能性ダンボールメーカー」として高い評価を取得、発泡スチロールの代替品として開発した製品は世界包装機構主催のワールドスターコンテストで最優秀賞を獲得した。使い捨てからリサイクルへの新しい価値のもと、リサイクル可能な保冷ダンボールや耐水ダンボールを開発し販売している。



保冷・美粧性に優れたクールダン